

(仮称)厚生産業会館、介護保険、「市民がど真ん中」はいまいずこ 決算議会、4日から月末までの会期で開会中

9月定例市議会が4日から始まっています。今議会は決算議会です。昨年度の一般会計決算などの審査を通じて、市政全般、各事業の到達点、成果と課題を明らかにし、来年度以降の取り組みに役立てていく場となります。

私は5日、日本共産党議員団を代表して総括質疑に立ち、市政の重要課題について市長の考えをたどりました。以下、その主なものを紹介します。

(仮称)厚生産業会館ごり押しに 反省の言葉ひとつも無し

まず、昨年度の市政で大きな問題となった(仮称)厚生産業会館整備事業についてです。市長は提案理由のなかで、「検討委員会での検討を基に、パブリックコメントや関係団体などからの意見・要望を踏まえ、基本構想を策定した」としかのべず、市民から反発があったことや高田区地域や協議会などの反対を押し切ってすすめたことには一言も触れませんでした。

私は、「総括だから、どういふ目標で、どこまで到達し、どういふ成果と課題があったかを明らかにす



べきだ。実際、当初目標の基本設計、地質調査をするには至らなかった。もっと踏み込んだ総括を」と迫りました。しかし、市当局は、「市民の声を聞くのに時間がかかったから」としか答えませんでした。

介護施設の民間譲渡で市民サービスは向上したのか

次は、デイサービスセンター等の介護保険施設の民間事業所への譲渡問題です。昨年度、市は、「公の施設の再配置計画」に基づき、26の介護保険施設について民間事業者への譲渡を進めてきました。市民へのサービス維持よりも財政削減を優先したのです。

私は、市が、事業の成果として「デイサービスセンター等を民間事業所に譲渡し利用者に対するサービス向上等を図るとともに、今後の施設維持管理費の削減を図った」(委員会資料)としていることについて疑問を感じ、「実際には譲り受けた民間事業所の負担が増大し、利用者へのサービス向上にはなっていないのではないか。また、市の施設維持管理費の削減分がそのまま民間事業所、ひいては市民の負担増につながる心配はなかったのか。さらに、譲渡にあたって、当該の民間事業所との間で合意はできたというものの、未解決の課題が残っているのではないか」と質問しました。

これは、去る8月21日の市議会厚生常任委員会と市社会福祉協議会との懇談会で、市社会福祉協議会幹部から施設譲渡問題で市との間で課題が残っていることが赤裸々に語られたことを受けての質問です。

これに対して市長は、「譲渡後は、指定管理



【ヤブツルアズキ】漢字で「藪蔓小豆」と書きまです。見た目は小豆そっくり。ツルがなければ、小豆だと勘違いするでしょう。花の色は黄色、土手や野原に咲きます。写真は吉川区山方にて撮影。

者としてではなく、自らの責任による経営者として運営されていることから、他の法人との競争原理が一層働き、利用者の確保等に向け、より質の高いサービスの提供がなされているものと考えている。修繕費や減価償却費は、当然事業者の責任において負担することになるが、その財源となる介護報酬は、サービス内容や提供時間に応じて全国一律に設定されていることから、修繕費など事業者が負担することによる利用者への影響はない。未解決の課題があるとは認識していない」と突っぱねました。

介護保険料の負担軽減言及せず

もうひとつは介護保険です。第1号被保険者の保険料を平均30%も増額した結果、当市は全国で3番目の高額保険料となりました。負担だけが一挙に3割も増え、市内の高齢者の間からは、悲鳴が上がっています。この実態について、どう総括しているのか、質問しました。

市長は、「大幅に増加した給付費に対応するため、一定のルールに基づき算定し、増額となったものだ。市民の皆さんの負担感は大きいものと認識しているが、市としては、介護認定の適正化、及び、必要な人に必要なサービスが提供されるようケアマネージャーの資質向上の取組を進めるほか、介護予防事業を一層強化すること、給付費の抑制を図っていきたい」とのべるとどまり、負担軽減についてはのべませんでした。

賑やかに鳴いていたミンミンゼミの鳴き声も少なくなり、コオロギなど虫たちの声の方が多く聞こえるようになってきました。早朝のミンミンゼミの鳴き声は大きく、一匹だけで十匹分くらいの音量を出そうと力んでいるようにも聞こえます。

九月に入り、季節は本格的な秋に向かって大きく動き始めました。私の周りの田んぼでは酒米・五百万石の収穫作業が終わり、コシヒカリよりも一足早く刈り取りができる「こしいぶき」の作業が始まっています。ただ、今年は雨が続いたこともあって、稲の倒伏によって刈り取りに時間はかかるし、ぬかるんだ田んぼではコンバインを埋めないようにと気を使わなければならないとあって、稲作農家のみなさんは大変苦労されています。

私はこうした人たちの姿を見ると、いまでも、稲刈りやワラ集めをしたときの父や母の苦労を思い出します。

いまから三〇年ほど前のこと、尾神岳の南側の屏風のような山の一角に「ヨシワラ」という地名のところがあつた。そこにわが家の田んぼの一部があつた。田んぼは五枚ほどで、全部合わせても面積は二反あるかないかといった感じでした。稲の刈り取りはバインダーです。「ガチャガチャッ、ボン」という音を立てて刈り取っていく、その機械はけっこう重く、半日もつかまつていると肩が痛くなりましつた。田んぼに水がたまつているときや泥だらけの時には、バインダーの脇に舟をつけ、そこで稲の束をうけるようになっていました。しかし、それは使い勝手が悪く、父が運転する時には、機械のスピードに合わせ、脇を一緒に歩き、飛び出してくる稲の束を瞬時に受け取る担当をしたものです。

言うまでもなく、バインダーがまつたく使えない田んぼもありました。稲が倒伏して、しかも、稲穂が田んぼの表面に張り付いてしまつたところだつた。張り付いた稲を手で引つ張るとビリビリと言う音がしました。それを稲刈り鎌で刈り取りました。私が味わつた苦労はほんの十数年でしたが、父や母は私の何倍もの苦労を経験してきました。振り返ると、本当によく頑張つたものだと思います。

父が逝つて五回目の秋がやってきました。すでに田んぼ仕事も牛飼いの仕事も辞めてしまいましたが、母は相変わらず、牛舎近くにある畑に三輪自動車を通い、野菜を作り、自分でいろんな料理をして楽しんでいきます。

先日も母は暗くなるまで牛舎脇にいました。何をしているのかと思つて近づくと、大量のミョウガを洗つているところでした。こんなにたくさん洗つても食べきれないだろうにと思つていたら、余計な心配でした。冷凍庫に保存しただけでなく、翌朝までにミョウガの佃煮まで作つていたのです。

また、数日後には、白菜の移植作業をしました。牛舎脇で小さな黒いポットに種をまいていたものです。三輪自転車の荷台に載せ、畑まで運び、移植していたのですが、私が市役所から戻つたときに母の背中を見てびっくりしました。汗びっしりになつていたので、「汗、かいたがが。風邪、引きなんなや」と声をかけたら、母は「おー」と返事をして自転車をまたがりました。

夏から秋へ。暑さ対策から外へ出るのを控えていたこの家でも、外仕事を活発にするようになってきました。食欲も出てきます。わが家では母の作つた漬物だけでなく、ミョウガの佃煮なども食卓に並ぶようになりました。

若者等が集まり、まちづくり大放談



「橋爪さんに出てきてもらいたいって声がけっこうあるんだよね」というEさんの言葉が耳に残っていたので、やりくりして、『旅の人&ジモティ大放談』に参加してきました。この会は上越以外からやってきた人と地元人が話し合うことを目的に、8日、高田小町で行われました。参加者は約40人。若い人たちの参加が多く、とても有意義な会となりました。

津の違い、まちづくりへと話が展開しました。「文化行政は高田が中心という気がする」「高田の人は（歌を）じっと聴いていて、拍手を送る。直江津の人は一緒に歌い出す」「上越の観光は集団観光客相手よりも一人のお客さんを丁寧にもてなすタイプでいいんじゃないか」など、放談会らしく、率直な発言がポンポン飛び出して、とても楽しい会となりました。なるべく参加者みんなが放談できるよう配慮した進行もよかったです。

会の中では、最初、地元人とそうでない人のずれを中心に出し合い、その後は、観光のあり方と魅力、高田と直江

津の違い、まちづくりへと話が展開しました。大放談会を呼びかけた人たちは、今後もこういう会を計画すると意気込んでいます。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だと

	9月4日(水)	9月11日(水)
上越南消防署	0.040	0.036
上越北消防署	0.043	0.053
新井消防署	0.047	0.053
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.043	0.050
東頸消防署	0.043	0.043
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.050	0.050

もうムカゴの姿が……

9月になったばかりだというのに、もうヤマノイモのムカゴが出ていました。塩ゆでもよし、コメと一緒に炊いてもよし。自然の恵みがじつに美味しい。まもなく近くの農産物直売所にも出されることでしょう。

